重要性増す「備え」

豊橋大停電をふりかえる―市講演で鈴木主査

災害は不可避 準備の留意点解説

災害について考え、しっかり備えよう―。豊橋市は10日、市内東新町の「さくらピア（市障害者福祉会館）」で、「豊橋大停電をふりかえる」と題し、被災した場合にどう対応すればいいのかに関する講演会を開いた。約50人が集まり、災害への備えをしっかり行うことへの重要性を確認した。（坂勇人）

2011年3月11日に発生した東日本大震災の教訓を忘れてはならないという目的で、同所で毎年開かれている集まりでの取り組みの一つ。

講演を行ったのは、市防災危機管理課の鈴木元紀主査。講演で強調したのは「（災害時の）停電は、なくすことができない」ということ。台風は毎年必ず発生する点、この東海地方に大災害を及ぼすと予測されている「南海トラフ地震」の発生確率は今後30年間のうちで70％から80％と高い想定がなされている点などから、災害は避けられないとした。

その一方で、水や食料、日用品や衛生用品などの備蓄品を充実させ、モバイルバッテリーといった非常時の電源を確保しておくなど、災害時の備えをしっかりしておくことが重要だと指摘した。

鈴木主査自身が行っている独自の災害対策として、乗用車に入れているガソリンの容量が、半分以下にならないよう留意していることを披露した。その理由は、非常時に車を電源として使用できるからと説明した。

また、両手が使えるようになるため、頭に巻いて使用できるヘッドランプが、実際の被災地で有効だったとの現地の声を紹介した。

市内西七根町から訪れた女性（33）は停電時を振り返り、「自宅をオール電化としているので、食事は作れない、入浴できないと大変な事態に陥った」と語った。災害への対策としては「非常時のための発電機を備えておきたい」とした。

鈴木主査は「災害、そして災害によって引き起こされる停電などの二次災害は防げない。どうにもならない部分がある」とした上で、「しっかり準備することが何より重要だ」と話した。

ヘッドランプが災害時に有用と呼びかける鈴木主査（さくらピアで）

東日新聞

平成３１年３月１１日（月）